

滑稽新聞

滑稽新聞社

〒444-0103 愛知県瀬西市幸町
大字下草字称宜屋敷(科研) 63-1
目も鼻も悪くたが「類」は良いの号
第339号 創刊 1990年7月28日
E-mail: kolkei1949@yahoo.co.jp

失ったものを数
えるな、残された
ものを最大限に
かめ。——ルード
ウィヒグッドマン博士
世に身体障害者
はあつた仕事に
障害はありえない
——中村裕博士



2年越しの名古屋大会

コロナ禍で延期となった発表会がZOOMで使ったりリモート形式で行なわれた。

福島裕人さん(名古屋短大)は、今こ

そくスクス笑いど免疫力アップと学生と
一緒に創作マスを創作、赤いベロと衣に描
いたマスを付けて街に出たり、目元のま

情で笑顔を伝える工夫を凝らした。

高田佳子さんは笑いヨ

ガの普及者として有名なが、笑

いクラブとネットを開き、ユーモアやジョークを使わ
ないで笑いをおこす活動を行なってきた。96年

のお葬式は毎日笑いに参加し今も死去、一生

笑って過ごす旅だった。先にいって笑いで待つ、

るで」といえる人を増やしたいと努力し、とカ

説いていた。人工知能で人を笑わせられるか?

を発表した。瀬本明さん(甲南大)の語り興味深

かった。A1に最新の台本を作らせ、ロボットに笑わせ

る。18年のミーティングにも出場したが残念なが

ら予選敗退。しかし、時代は今そ

こまに変わっているのかと驚かされた。

閉会挨拶は昇幹夫さん(副
会長)。「会場となった名古屋女子大



は日本人女性初のオリニッ、金メダリスト前畑香子さんと輩出した
由緒ある学校。そう言う歴史を知っておいて下さい。」と前置きした後、「私は
皇居の今仕活動に数回行きました。陛下、映画は好きですか?」「はい、アメ
リカ映画が。」どんな映画ですか?」「未知(美智)との遭遇です。」と記者と
のやり取りがありました。と言うエピソード(美智?)を紹介しました。」と言
う笑いで締められました。さすが大い学生会副会長。

良い誕生日を迎えられました

毎年迎える誕生日だが、今年ばかり嬉しかった。妻が日

本食の美味しい店に連れて行って、くめ、た。ぶり時間をか

けて食事を楽しんだ。よく元氣でこの日を迎えられたわ。」

夫婦共に感じる思いだ。食事の後、西尾市を代表す

る画家斎藤吉朗氏のアトリエを訪れ

た。いっか道にみ会いた。」と

ずと思っていたが実現した。

西尾市の花はバラ。一面に花柄が

描かれたポストが市役所前にあ

る。まだ現役だ。こころを紙を投函すると、バリエ

の未来が開ける(と言う気持ちになる)。

創刊30年の祝

と読者から頂戴した。30年もの

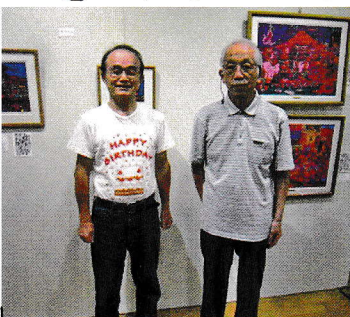
ワインテージ(日本酒)があるうとは! 勿体

なくて飲めない。30年続けたのは読者

の編りやお世評が毎回カンフル剤の様に
注入されたお陰なのに、祝って貰うとは...



西尾市のばらポスト



展のアトリエ 斎藤吉朗氏と



金まん付まつ前菜

青う盛りは「どんぱん」と読むが、思春期は「せんぱん」に憧れ、おにぎりと「まんぱん」に心踊らせる。

滑稽新聞30周年おめでとう

すぎうらやすよ

康司さんと私は四十年前に出会いました。はじめはお金で合意して合意に行くことになり、車に乗せてもらった時「シートベルトをして下さい」と言われ、四十一年前シートベルトはまだ一般化ではなく、「えっ、それで何ですか、はい」は自動車関係の会社に勤めているので、安全運転には一層気を付けているのです。」とひげうまいに真面目な顔で答えました。



二セ小判とぜんべい (100号記念)

結婚してから、お金は貯めるもの」という理念のもと、財産目録ノートに

いろいろ書き込んでいました。

その康司さんが、東京へ転勤となり

いろいろな方との出会いをいただきました。

価値観が大きく変わりました。日本人生きてきた

滑稽新聞は、康司さんが人生を歩んで生きてきた道程です。

100号記念の時は、「こけいせんべい」を読者の方々に発送してボーナスがすべてふつとびました。

今回三十周年を迎えられたのは、いっしょに歩んで下さる読者の方々がいて下さるおかげです。

読者のみなさま、おひとりおひとりに、金メダルを差し上げた、くらい感謝しています。ありがとうございます。

カイロ・フラウ・テックの先生から、「10年後、72才で歩けなくなるかも」と脅されたが、72才になっても歩ける。旅行、リハビリ、畑仕事、好むものの購入か？



オリパラと私

厚い雲に覆われ続けている。コロナ禍の日本。貧乏入りしている中間がれた東京オリンピック。

数々の感動や喜びをテレビの前で我々に提供してくれた。

サリンピックは気持ち良いがスポーツマンシップにはかなわない。

選手村で見た絵ハガキ(写真)が好評だった。郵便好きの私は、記念切手だけでなくその絵ハガキも買いたい。

パラリンピックの原点となったグッドマン博士の言葉とスズメに聞

いた。太陽の家(別荘)創始者中村裕博氏の言葉と合わせて。29年前に

ボランテアで訪れた大分県イスマラソンが懐かしい。車イスランナーのアイドに

だった土田和歌子選手はまた現役選手。その姿に元気づけられる。

笑江湖感

△とうとう言ってきた。いつもの病院

の会計窓口。念のため、お名前を「呼吸おいて、水村拓成です」若い女性担当者の驚きの声と表情とを

つたらし。▼コンジュルスの大谷翔平選手の活躍が

目ざまーい。我が家ではいっしょに祖孫と一緒に過ごす。応援

している。浄土真宗「大谷派」と合言葉は「南無

阿彌陀佛、ナニマンダバ。今日も頼むよホームラン

▽パラリンピック自転車ロードレースの柳浦佳子選手(50)

「最年少記録は二度ござるが最年長記録は何歳になっ

てもござる」このコメントも金メダル級。▼滑稽新聞は肩のほろい新聞。下

タがある新聞は、男性に受け入れられ長続きします。(兵庫県の読者Nさん)

